

# 21世紀のシステムソリューション

前田 裕

「21世紀」の幕が切って落とされた。歴史を振り返ってみると、18世紀にはワットが蒸気機関を発明し、産業革命をもたらした。19世紀にはモリスが電信を、ベルが電話を発明した。電気通信技術の始まりである。20世紀半ばにはコンピュータが発明され、情報技術（IT）の基礎が出揃い、情報化社会の礎が築かれた。その後これらは目覚ましい発展を遂げ、人類はついに20世紀後半に輝かしい情報化社会を築き上げた。

21世紀には創造化社会、いわゆる知恵の社会を迎えるといわれる。社会活動を測る単位で見ると、工業化社会では「カロリー」、情報化社会では「ビット」であり、産業のボリュームあるいは価値を表現するものである。創造化社会における単位は、野村総合研究所によれば「創発量」（創造を発する量）だという。カロリーもビットも、そしておそらく創発量にしても、金に換算できる単位としてその時代のベースになっているものと考えられる。

## 本格的な「e社会」の到来

ITの進化に伴いネットワークとコンピュータの技術が融合した結果、デジタル化された情報が時空を超越し自由に飛び交い、インターネットが情報のグローバル化、ユビキタス化（遍在化）に拍車をかけ、人・物・金・情報の流れが大きく変わる本格的なグローバルネットワーク時代が到来した。

従来の企業は、ビジネスモデルは変えずにIT化することで省力化／効率化を実現してきたが、今後は、ビジネスモデルをもダイナミックに変え、社会・経済・産業構造あるいは生活の在り方までも破壊し、新しい在り方を創造する時代に導いていくと考えられる。規制緩和や業態変革が進むと同時に、電子商取引（eコマース）に代表されるバーチャル空間が出現しているが、これらを支えるのがITである。その更なる進化によって、人々の活動が、グローバルに整備されたネットワークインフラ上で、時空・言語・国境などのハードルを超越して成り立つ本格的な「e社会」が到来するであろう。

## 顧客価値創造型ITソリューションの提供

当社は、「ネットワークソリューションの沖電気」を企業ビジョンとして掲げている。人々の活動の原点、つまり「e社会」の基本機能とでもいうべき「コミュニケーション」を「もっと広く、もっと速く、もっと確かに」するためのソリューションを的確にお客様に提供していくというものである。

「e社会」は、グローバルなネットワークインフラをベースにしているが、「e社会」とネットワークインフラの間のギャップを埋めるものを「サービスブリッジ」と称し、カスタマコンタクト、マルチメディアメッセージング、ネットワークアプリケーションサービスの3つに分類している。（図1参照）

システムソリューションカンパニー（SSC）は、「顧客価値創造型ITソリューションの提供」をビジョンとして事業展開を行っており、カスタマコンタクト・サービスブリッジを中心としたソリューションを多くのお客様にご利用頂いている。創発量が問われる「e社会」にあって、まさしくお客様の創発、すなわちお客様が新たな企業価値を生み出すことを支援するシステムソリューションを提供している。

本特集では、21世紀の「カスタマコンタクトソリューション」として、金融機関のデリバリーチャンネルソリューション、官公庁向けの電子政府ソリューション、ITS\*<sup>1</sup>におけるスーパーモバイルソリューション、および運輸・介護などの分野への応用が期待されるGPS\*<sup>2</sup>とCTI\*<sup>3</sup>技術を活用した位置情報ソリューションを提案する。

eコマース分野では、インターネット決済、インターネットバンキング、Webトランザクション、およびセキュリティの4つのソリューションが今後重要性を増大させると考えており、SSCが考える21世紀のeコマースソリューションとして具体的な考えを提案する。

「e社会」を様々な脅威から守るためにセキュリティソリューションが求められる。SSCでは、アイリス（虹彩）

\*1) ITS : Intelligent Transport System \*2) GPS: Global Positioning System (全地球測位システム) \*3) CTI: Computer Telephony Integration

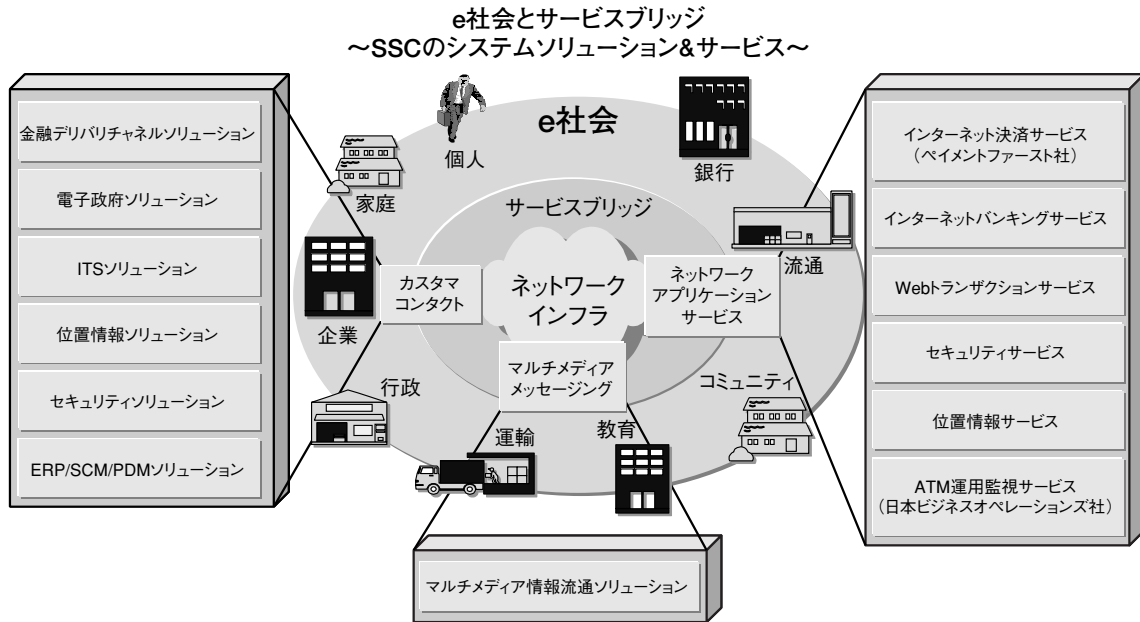


図1 e社会とサービスブリッジ

パターンを利用した個体認識技術や柔軟性が高く処理速度が速い電子透かし技術をもとにしたソリューションに加え、セキュリティポリシーやセキュリティシステムの構築・診断等のサービスを用意している。

さらに、各種マルチメディアコンテンツを流通させるためのマルチメディア情報流通ソリューションがある。これは、人々が自由に情報にアクセスし、また発信することができる「e社会」にあって重視されており、マルチメディアメッセージング・サービスブリッジとして位置付けることができる。

### サービスビジネスへのチャレンジ

SSCが、カスタマコンタクト・サービスブリッジとして現在トップシェアを誇る領域に、金融機関向けテラマシやATMシステム、あるいは旅客交通業界向けの営業店端末システムがある。今後この領域ではネットワークアプリケーション・サービスブリッジ分野への注力が本格化していくと見られるので、実績を活かした事業展開を推進していく。

その一環として、昨年ATMの運用監視サービス会社である日本ビジネスオペレーションズ社を、さらにはインターネット決済会社であるペイメントファースト社を設立した。これらは、SSCにとってのサービスビジネス市場への進出の試金石として位置付けている。

### 研究開発への取組み

「e社会」の実現に貢献するための研究開発も着実に推進する。例えば、臨場感のある情報コンテンツをインターネットを介してリアルタイムに双方向へ伝達させることで、情報提供者と享受者とに一体感を持たせるリモートコラボレーションを可能とする「eメカトロニクス技術」や、ユニバーサルデザインの考えのもとに、初心者、障害者、高齢者を含む誰もが平等に情報を利用できる環境を作り出す情報ユニバーサルデザインに取り組んでいる。様々なソリューション開発の基本であるソフト/ハードの開発製造技術に関しても、インクリメンタルモデルの1つである「発展的配布モデル」に基づくソフト開発やハードの3次元CADによる製品設計開発にも取り組んでいく。

21世紀は知恵の社会、創発量が評価基準になる躍動の時代である。21世紀の輝かしい幕開けを迎えるに当たり、お客様の価値を創造するためのシステムソリューション創りを目指し、SSCグループ全員が一丸となって創発していくことを決意する。また、進取の精神を発揮し、お客様のご期待に応えるよう、新技術開発に加えサービスやビジネスモデル開発をスピーディに進めていく。◆◆

### ● 筆者紹介

前田 裕：Yutaka Maeda.常務取締役 システムソリューションカンパニー プレジデント